

令和3年度

印西市民アカデミーだより

第8号

印西の歴史散策7 (小林/台方・馬場)

明治22年の町村制の実施により、木下町、大杜村、船穂村、永治村が誕生しました。小林地区は、木下町の東側に位置し、明治38年8月には成田鉄道の小林駅が開業しました。この小林駅は、昭和20年代後半から「東京行商」の拠点として賑わいました。昭和52年に小林牧の里の開発認可に伴い、宅地開発が進められ大きく変貌しました。今回は、真夏の真っ青な青空に浮かぶ真っ白な入道雲を見上げながら、少年少女時代の夏休みの大冒険の気分で小林地区(台方・馬場)を元気に散策しました。コースは、小林コミュニティプラザ→光明寺→小林八坂神社→巴塚→小林鳥見神社→道作古墳群→東大社→小林コミュニティプラザ(約4km)です。



光明寺

◀昭和57年に市有形文化財に指定された光明寺弥陀三尊下総型板碑は、黒雲母片岩製で、丈110cm、幅48cm、厚さ3cmです。その中心には枠線に囲まれた三尊が配置されています。



小林鳥見神社

◀下総地方に定住し開拓した民が「饒速日命」を祖神として祀ったのが鳥見神社と伝えられています。香取の海に面した下総台地上に18社が点在しており、小林鳥見神社はそれらの惣社といわれています。



八坂神社

◀江戸時代末期に小林台方周辺で疫病が流行し、上総国山辺郡松之郷の牛頭天王に疫病退散を祈禱し無事を得たことから、小林全体で天王様と称して祇園祭を行うようになりました。



道作古墳群

◀道作古墳群では、前方後円墳9基、円墳11基、方墳1基が確認されています。6世紀前半から7世紀初頭に造営されたものと推察され、群中最大の古墳は、全長45m、高さ4mを測る前方後円墳です。



巴塚

◀木曾義仲の愛妾の巴御前は、義仲が鎌倉方との戦いに敗れた後、和田義盛の愛妾になります。その後、北条方との戦いに敗れ義盛が滅亡すると、尼になり小林に隠れ住み、この地で最期を迎えたと伝えられています。



東大社奥の竹林

◀道作古墳群の裏側にある丘陵から東大社につづく山道の両側には、太く立派な孟宗竹の竹林が広がっています。小林地区は、昔から竹林が多いことで知られています。京都の竹林にいるような雰囲気味わえます。